

熊本県立宇土中学校・宇土高等学校 令和6年度(2024年度)学校評価計画表

<p>1 学校教育目標</p> <p>熊本県教育委員会の「令和6年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」及び「令和6年度人権教育取組の方向」等を中心に据えながら、全職員が教育者としての自覚と使命感、教育的愛情と人権感覚を持ち、資質と指導力の向上に努め、生徒一人ひとりの個性を伸ばしながら、知・徳・体の調和が取れ、自ら学び、自ら考え、自ら行動し、たくましく生きる力を備えた将来のリーダーとなる青年の育成に努める。さらに、本校建学の精神である「質実剛健」のもと百年を超える伝統を継承しつつ、中高一貫教育校として新たな発展と創造をめざす。</p> <p>中高一貫教育校としての利点を生かし、効果的な教育のあり方を研究するとともに、地域との連携をより一層深め、地域に開かれた特色ある学校づくりに努める。</p>
--

<p>2 本年度の目標</p> <p>1 安心安全な学習環境づくり 2 グローバル研修の充実 3 自治力向上 4 学習力向上 5 探究力向上 6 生徒一人一人の多様な進路実現 7 スーパーサイエンスハイスクールの取組推進</p>

3 自己評価総括表						
大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
	学校の魅力化	<ul style="list-style-type: none"> 入学志願者数 グローバル研修参加生徒数 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校志願者140人以上、高校志願者200人以上 グローバル講演会4回以上 海外大学進学者数5名 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒募集パンフレットを刷新、中学校での学校説明会で卒業生ビデオレター導入 既存の国内外の研修や修学旅行等を含めた検討(R7年度) 台湾の複数大学訪問ツアーの案内、海外で活躍する卒業生との交流 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校志願者109人、高校志願者129人 グローバル講演会を4回実施 海外大学進学予定者数4人 中1～高2全員に年6回オンライン英会話を導入 各種グローバル研修に中学生47人(現在応募検討者も含む)、高校生48人、計95人が参加 来年度、中3全員、グローバル・ステーズ・プログラムを導入
	中高の垣根を越えた教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 校種を越えた授業、活動の実施数、参観数 中高一体となった探究活動数 	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫6年間の学びを見据えた授業改善 探究を個人の希望と展望を持って進めている生徒数が50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 教科内で6年間を通したシラバス策定、新しい評価規定による観点別評価の適正実施 Well-Beingを見据えた中学校独自の体験活動と高校の効果的な学びの接続の検討 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価に関する専門家を招いての職員研修を実施 来年度に向けたシラバス作成の意識を各教科で醸成 進路検討会の研修化(高3生3回、高2生1回)
	業務改善・働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 時間外従事時間 年休等取得日数 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外業務従事時間前年比10%縮減 平日の時間外業務従事時間目標(40h) 年休等取得12日以上 時差出勤モデルケース提示 	<ul style="list-style-type: none"> 8月定時出退勤月間の設定 学習アプリ、デジタル採点の効果検証 模擬試験監督等に卒業生からなるスクールサポートスタッフを活用・検証 学校閉庁日の設定 メンタルヘルス職員研修の実施 衛生委員会の充実 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 10人のスクールサポートスタッフが休日のUTO自学塾、模擬試験の監督を実施 夏季休業中(8月)、17人の職員が時差出勤 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間外従事時間、平均42.1時間(昨年比10%増) 年休取得11.4日を達成(昨年0.86倍) 長時間勤務者が固定しており、業務の平準化、外部人材の活用、職員の意識改革が課題
学力向上	生徒の学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価 	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価の総括で、原則Cがつく生徒数ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価でCがついた生徒へのその後の指導・支援の充実 個別最適な学びを充実させるツールの各教科の活用 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 高校:スタディサプリ 中学校:キュビナなど </div>	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3観点評価による成績算出の確立 定期考査を廃止し、学期1回の実力テストに移行 通知表を廃止し、成績連絡票配付に移行 観点別評価Cの生徒への指導・支援の充実 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観点別評価総括Cの生徒が一定数存在 個別最適な学びを充実させるツールの

	教師の授業力向上	・授業評価	・生徒の授業満足度90%以上 ・「探究の問いを創る授業」の実践度 高校:95%以上 中学校:70%以上	・年3回の公開授業及び授業研究会の実施 ・各教科による「探究の問いを創る授業」の実践状況共有の職員研修実施	B	【成果】 ・探究の問いを創る授業研究(7月、11月、3月実施) ・生徒の授業満足度は94.5% ・協働的な学びや探究の問いを創る場面が充実している授業が、学びが深まる授業として高評価 【課題】 ・「探究の問いを創る授業」の実践度は高校:88%、中学校:95% ・他教科間も含めた実践の共有
キャリア教育 (進路指導)	基礎学力の定着と幅広い知識を基盤として、教科横断的な見方・考え方ができる資質・能力の育成	・すべての生徒の自学時間	・すべての生徒が2時間以上自学	・ラーニングルーム、自学塾等学習空間の設置 高校: ・特別授業、進取会等学習機会 ・スタディサプリ等学習ツール 中学校: ・キュビナ等学習ツール	C	【成果】 ・ラーニングルームの設置 ・同窓会館を利用した土日の自学塾実施 ・学習ツール導入、特別講座の実施、学びの羅針盤発行等、個別最適な学びを推進 【課題】 ・中学、高校ともに2時間以上自学できている生徒は50%程度 ・自己調整学習できない生徒への教員の介入方法の検討が必要
		・すべての生徒の振り返りの機会回数	・すべての生徒が3回リフレクション	・評定、模擬試験、コンピテンシー評価を可視化した面談資料モデルの作成 ・ポートフォリオ、キャリアパスポート活用	B	【成果】 ・様々なデータを一元管理する検討会資料完成、キャリアパスポート入力・出力の運用体制構築 【課題】 ・生徒の振り返りの際、教員との対話を促すしかけが不十分(担任依存)
生徒指導	交通安全意識の醸成	・すべての生徒が探究を通して社会とつながる機会回数	・すべての生徒が1回以上外部と探究	・学問:ジャパンナレッジSchool等活用 高校: ・学会、コンテスト、大学、企業等との連携 中学校: ・地域、大学、企業等との連携	B	【成果】 ・ジャパンナレッジSchool等を活用して、課題研究外部連携6割程度達成(ジャパンナレッジSchoolとは、一人1台端末を活用して、辞書、百科事典、新書等を読むことができる学習支援ツール) ・世界津波サミット分科会15人、観覧に42人参加。海外からの参加者をスタディーツアーとして5カ国から50人を受け入れ体験授業等実施。 ・防災・減災技術フェア中3全員、高2代表生徒参加 【課題】 ・探究を通して外部とつながる必要性を感じさせるしかけが不十分。
		・すべての生徒が社会で活躍する大人に触れる機会回数	・すべての生徒が4回大人に触れる	・キャリアデザイン講座、キャリアデザインセミナーの実施 高校: ・未来体験学習、学びの部屋、出前講義、講演会等研修機会の設定 中学校: ・宇土未来探究講座、講演会等研修機会の設定	A	【成果】 ・キャリアデザイン講座計12回実施 ・2学期までに全生徒が3回以上大人と触れる機会を設定 【課題】 ・選択希望制の講座への主体的な参加
	生徒の自治力向上	・生徒へのアンケート	・生徒会主催の行事の企画・運営の充実度(満足度80%以上)	・生徒会中心の行事の運営、体育祭、文化祭、クラスマッチの内容の見直し ・各種行事の生徒会を中心とした活動の推進と充実化	B	【成果】 ・生徒会による充実度は80%以上 ・体育祭、文化祭、ハロウィンフェス等の学校行事全般に積極的かつ意欲的な取組 【課題】 ・教師全体の共通理解

		<ul style="list-style-type: none"> 各種委員会へのアンケート 校則検討委員会のアンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会活動の実践、達成度80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 各種委員会活動の充実と活性化。生徒会執行部の主体による各種委員会の開催 生徒会を中心とした校則の見直し 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種委員会活動の実践、達成度は80%以上 生徒会と各種委員会が協力して各行事の企画、運営を実施 生徒会を中心に中高連携して校則検討委員会を実施
人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導	<ul style="list-style-type: none"> 人権意識調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 自他を尊重する態度の育成 他者を共感的に受容するコミュニケーション力の育成 全職員による共通理解と実践 家庭への啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 人権作文・標語等の作成と応募 いじめ防止委員会に所属する生徒が主体的に行うLHR等、積極的な人権活動の実施 学期1回の職員研修の実施 学期1回の人権LHRの実施 	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権メッセージ・標語コンテスト等への積極的な参加、応募 いじめ防止委員会では、人権メッセージ・標語の選考、展示、宇土市のイベントにも参加 職員研修やLHRを活用した「人権子ども集会」への全員参加、人権意識調査の実施 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者への啓発
特別支援教育	特別支援を必要とする生徒への支援と対応	<ul style="list-style-type: none"> 支援、指導計画実施状況 	<ul style="list-style-type: none"> 支援体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとの実態調査の実施 年2回の生徒理解研修の実施 担任、担当間の情報・課題の共有(入力シートの活用・学年、教科会等での共有) 外部の専門機関や巡回相談、教育相談員、SCとの連携 サポート会議の実施 支援、指導計画の活用及び小中高大(進路先)の支援の引き継ぎ 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別の指導支援計画の引き継ぎのシステムの整備 担任、保護者、専門機関と連携した支援計画の作成 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援計画の活用 効果的なサポート会議の実施 別室登校の認定から実際の支援 進路先引き継ぎまでの情報共有 支援体制の充実
いじめの防止等	いじめ防止に向けた生徒と職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> いじめの予防・早期発見及び組織的対応 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ見逃し0件 いじめ解消100% 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを1、2学期の早い時期に実施 1学期中に職員研修の実施 各学期に「いじめ防止対策委員会」を開催 外部専門機関を交えた「いじめ防止対策協議会」の実施 スクールサインを活用した相談しやすい環境整備 SNSに関するクラス及び学校の目標設定 スクールロイヤー活用事業によるいじめ予防授業や職員研修の実施 「生徒いじめ防止委員会」の活動の活発化 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 70%以上の生徒・保護者がいじめの早期発見及び解決のために適切に対応していると評価 いじめアンケートをクラスルームにより配信したため集約の時間短縮 各学期に「いじめ防止対策委員会」「いじめ防止対策協議会(職員研修)」を開催 全職員の情報共有化と外部専門家からの助言 スクールロイヤーによる「いじめ予防授業」「職員研修」の実施 人権課題の募集、展示や宇土ハートフルフェスタ参加など生徒いじめ防止委員会の活動がさらに活発化 生徒と職員の協働を実現 アンケート回答後やスクールサイン報告後に丁寧な聴き取りを行い組織的に対応 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ解消100%は未達成 担任・学年主任の負担大 副担任の再導入や組織内の役割分担を要検討
地域連携	地域との連携・協働(コミュニティ・スクールなど)	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート 地域連携企画数 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成、学校経営計画、防災体制等、内容を学校運営に反映 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の学校運営協議会の開催 小学生学習支援ボランティア「学びの部屋」の開催 地域清掃ボランティア 地域の資源を利用した課題研究の展開 	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート、地域連携について生徒・保護者が9割の肯定回答 「学びの部屋」高校生80人、児童127人参加 科学部地学班が地元漁協の協力を得て36年ぶりに永尾劔神社から不知火現象観測に成功 学校安全総合支援事業に係る公開避難訓練実施 災害時の情報伝達訓練実施
図書館活動	読書活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 図書館利用状況 	<ul style="list-style-type: none"> 授業利用前年度155時間から10%増の170時間 生徒の年間平均貸出冊数昨年から10%増 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科と連携したオリエンテーションの実施 職員向け情報提供(授業活用例・授業関連書籍の紹介等) 生徒図書委員会の活性化 月1回の広報誌『らいいぶらりいたいむず』の発行 月替の図書館特別展示コーナー設置 研修での学びを活かした活動 クラスへの周知活動の充実 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間授業利用は昨年並、平均貸出冊数は昨年の1.2倍 オリエンテーションの工夫改善、授業との連携により、利用の質の向上 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書意欲向上、図書館利用喚起の取り組みの質の向上

SSH	第Ⅲ期SSH研究開発の構想の具現化と次年度中間評価に向けた事業の可視化	・二年次報告書における事業の成果の検証・評価	・生徒及び職員のアンケートのポートフォリオ分析による重要度指標と満足度指標の可視化 ・定量調査結果(発表件数、視察訪問件数等)の経年調査と可視化	・UTO Well-Being探究Award2024、ロジックスーパープレゼンテーション等、発表機会の創出をはじめ、全生徒が当事者意識を持ち、目的意識の高い探究活用の推進 ・中学3年卒業論文と高校2年探究活動の連携、SS/GS/学際課題研究の指導体制と予算及び発表機会の視点を重視した運用	B	【成果】 ・第Ⅱ期研究開発で構築したポートフォリオ分析の運用、定量調査の指標化 【課題】 ・年度末集計のため、年度途中の可視化 ・SSH予算執行の計画性やバランス
		・第Ⅲ期採択時の文部科学省からの指摘事項に対する対応	・学校設定科目等を通じてWell-Beingなど新たな人材育成の取組、その成果と課題を可視化	・学校設定科目WB I、JWB、J-Tech、ロジックプログラムのシラバス開発と評価運用、ウェルビーイングシートの開発と運用 ・アセスメントやガイドブック、課題研究の評価等、進捗状況の可視化と整理	C	【成果】 ・高校学校設定科目、中学選択科目の授業実践を通して教材、評価、シラバス開発を実施 【課題】 ・第Ⅲ期研究開発ですべき評価、ウェルビーイングの実現を測る指標の開発が不十分

4 学校関係者評価
<p>○開かれた学校づくりと魅力化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定されており、数学・理科はもちろんのこと、全教科で探究の学びを推進している。UTO Well-Being 探究Award(探究の学びの発表会)には225人が来場。地域の方々とともによりよい企画にできた。 ・サイエンス&グローバルをキーワードにグローバル研修の拡充を行い、参加生徒が増加傾向である。オンライン英会話(中1～高2の全生徒対象)は英語を使う良い機会となっている。英語学習に対するモチベーションも上がっている。仕事で英語を使うことは全国的に見れば必須のこと。熊本でも広がると良い。 ・探究活動の成果の数値化は難しいが、教育は100年の計であり、特効薬ではなく漢方薬である。正解のない時代を生き抜くために必要な力を身につけさせている。 ・中学校説明会を3回実施し、志願者増につながっている。説明会を文化祭と同日に開催したのは良かった。 ・学校の取組を効果的に発信する方法を工夫する必要がある。ホームページだけでなく、Instagram等を用いた効果的な広報の仕組みを整える。生徒による広報も検討したい。 <p>○地域・行政・小中学校との効果的な連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会と連携して学校行事を運営したり、若い世代の同窓生が教育活動の支援に携わっている。近い教育資源を有効に活用できている。生徒に学校行事等の運営を任せ、失敗させながら自治力を向上させることが必要である。 ・評価に関する職員研修や公開授業を地域の小中学校の先生方などに案内しており、小中高の教員が共に学ぶ良い機会となっている。 ・宇土市の協力のもと、充実した探究活動ができています。 ・近隣中学校から、熊本市内の通信制高校に進学する生徒が増加している。宇土高校で育ててもらえないか。柔軟な教育課程編成について検討してはどうか。 ・部活動の指導のあり方は今のままで良いのか。地域移行は進むのか。適正な部活動運営について顧問会等で議論し、令和8年度以降の地域移行の在り方や適正な数の部活動を設置について検討が必要である。

5 総合評価
<p>○安心安全な学習環境づくり:各学期にいじめ防止対策委員会やいじめ防止対策協議会(職員研修)を実施し、全職員での情報共有化ができており、外部専門家からの助言を生徒指導に活かすことができた。</p> <p>○グローバル研修の充実:グローバル講演会(4回)、オンライン英会話(中1～高2全生徒6回)、台湾の大学訪問研修等、研修の拡充ができた。参加者も増加傾向であった。</p> <p>○自治力向上:体育祭、文化祭、ハロウィン等の学校行事を生徒主体で企画・運営することができており、生徒会を中心とした自治力が向上した。</p> <p>○学習力向上:観点別評価による成績算出、定期考査から学期1回の実力テストへの移行、年3回の公開授業及び授業研究会の実施等をとおして、学習力の向上につなげることができた。</p> <p>○探究力向上:外部と連携して課題研究等を行い、学会、コンテスト等で発表することで、探究力向上につなげることができた。</p> <p>○生徒一人一人の多様な進路実現:観点別評価でCの生徒の事後指導、スタディサプリ等学習ツールを活用した個別最適な学び、特別講座の実施、進路検討会の研修化等をとおして、多様な進路実現ができた。</p> <p>○スーパーサイエンスハイスクールの取組推進:第Ⅱ期研究開発で構築したポートフォリオ分析の運用、定量調査の指標化を行った。UTO Well-Being探究Award2024、ロジックスーパープレゼンテーション等の発表の機会を創出し、第Ⅲ期SSH研究開発の取組みを推進することができた。</p>

6 次年度への課題・改善方策
<p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と幅広い知識を基礎として、教科横断的な見方・考え方ができる資質・能力の育成。中学・高校ともに2時間以上自学ができていない生徒は50%程度。 ・第Ⅲ期SSH研究開発ですべき評価、Well-Beingの実現を測る指標の開発が不十分。 <p>○改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が2時間以上自学するしかけの構築、自己調整学習ができない生徒への教員の介入方法の検討が必要。 ・Well-Beingの定義を全職員で共有。学校設定科目WB I、JWB、J-Tech、ロジックプログラムのシラバスの改良。すべての授業でWell-Beingの視点を取り入れた授業の実施及び指標の開発。